



ミケランジェロ・ブオナローティとミケランジェロ・プルナーティの比較

ミケランジェロ・ブオナローティ (1475–1564年)

ミケランジェロ・ブオナローティ (Michelangelo Buonarroti) は、ルネサンス盛期を代表するイタリアの彫刻家・画家・建築家・詩人です ja.wikipedia.org。1475年にトスカーナのカプリゼに生まれ、フィレンツェやローマで活躍しました。教皇やメディチ家に仕え、多方面で才能を発揮した彼は、西洋美術史上のあらゆる分野に大きな影響を与え、「万能の人 (ウィトルウィウスの人間)」の典型とも称されます ja.wikipedia.org。88歳となる1564年にローマで没するまで精力的に制作を続け、生前から「最高の芸術家の一人」と高く評価されていました ja.wikipedia.org。

主な作品と業績: ブオナローティは壮麗な彫刻や絵画を数多く残しています。例えば、20代で制作した大理石彫刻《ピエタ》(1499年) や《ダビデ像》(1504年) はルネサンス彫刻の傑作として知られます ja.wikipedia.org。また、システィーナ礼拝堂の天井画『アダムの創造』を含む一連のフレスコ画 (1508–1512年) や、同礼拝堂祭壇壁画の『最後の審判』(1536–1541年) は西洋美術に計り知れない影響を与えました ja.wikipedia.org。さらに建築分野でもメディチ家礼拝堂やサン・ピエトロ大聖堂のドーム設計などに携わり、ルネサンス期の芸術に多大な貢献をしています。ブオナローティの作品群は現在でも非常に高い知名度を持ち、美術史に不朽の遺産を残しました ja.wikipedia.org。

ミケランジェロ・プルナーティ (1690–1756年)

ミケランジェロ・プルナーティ（Michelangelo Purnati または **Michelangelo Prunati**）は、18世紀に活動したイタリア・ヴェローナ出身の画家です it.wikipedia.org 。1690年にヴェローナで生まれ、父親は同じく画家のサンテ・プルナーティ（Sante Prunati）でした it.wikipedia.org treccani.it 。幼少より父から絵画の手ほどきを受けた後、更なる修業のためボローニャに移っています it.wikipedia.org 。プルナーティが27歳のとき（1717年前後）に描いた最初期の大型祭壇画は、後にヴェローナ市内のサンタ・マリア・デル・パラディーゾ教会に設置されました it.wikipedia.org 。以降も主にヴェローナを中心に制作活動を行い、18世紀半ば（1756年頃）まで生存しました。

主な作品と業績: プルナーティは宗教画を多く手がけ、その作品の多くがヴェローナ近郊の教会に残されています。たとえば、サンタ・マリア・デル・パラディーゾ教会には、父なる神がキリストに十字架を示す場面を描いた祭壇画があります it.wikipedia.org 。また、サンタ・エウフェミア教会には聖人伝を題材とした《聖アウグスティヌスの洗礼》という絵画を制作しました it.wikipedia.org 。さらにヴェローナ大聖堂には、プルナーティが自ら署名を入れたとされる『聖母被昇天（Beata Vergine）』の祭壇画が現存しています it.wikipedia.org 。これらはいずれも当時のバロック後期の様式を反映した宗教画であり、プルナーティは同時代のヴェローナ派の画家として一定の評価を受けています（彼は**Paolo Veronese**の傑作を模写するなど研鑽も積んでいました it.wikipedia.org ）。

両者の関係と相違点

同一人物か？

ミケランジェロ・ブオナローティとミケランジェロ・プルナーティは**同名の別人**であり、直接の血縁関係もありません。まず生没年と活動時期からして大きく隔たっており、ブオナローティは15～16世紀（1475年生–1564年没）に活躍したのに対し、プルナーティはそれより約200年後の17～18世紀（1690年生–1756年没）に生きた人物です ja.wikipedia.org it.wikipedia.org 。ブオナローティが花開かせた盛期ルネサンス期の芸術と、プルナーティが属するバロック後期（18世紀）の芸術では時代背景が異なり、様式やテーマにも大きな違いがあります。

血縁・家系の違い:

両者の家系にも接点はありません。ブオナローティはフィレンツェの小貴族の家に生まれ、本名を「ミケランジェロ・ディ・ロドヴィーコ・ブオナローティ・シモーニ」といいました。生涯独身で実子を残さなかった彼に対し、プルナーティはヴェローナ生まれで父親も画家という芸術一家の出身です treccani.it （父サンテ・プルナーティの門下からは他にも有力画家が輩出されています）。姓も「ブオナローティ」と「プルナーティ」で異なり、家系的なつながりはありません。

活動分野・業績の違い:

ブオナローティは彫刻・絵画・建築・詩作とマルチな才能を発揮し、ルネサンス芸術の頂点を極めた巨匠です。とりわけ彫刻と壁画において《ダビデ像》ja.wikipedia.org や『システィーナ礼拝堂天井画』ja.wikipedia.org といった歴史的傑作を生み出し、その名声は当時から現在まで世界的規模で語り継がれています ja.wikipedia.org 。一方のプルナーティは、専ら絵画（とくに宗教画）の分野で活動しました。彼の作品は主に地元ヴェローナの教会空間を飾る祭壇画や壁画であり、題材も聖書や聖人伝にもとづくものが中心です it.wikipedia.org 。その知名度や影響力は地域的な範囲に留まり、ルネサンス期の巨匠ブオナローティと比べると国際的評価には大きな開きがあります。ただし、プルナーティも同時代のヴェローナ画壇においては重要な一人であり、父サンテとともに後進の画家に影響を与えました。

まとめ:

以上のように、ミケランジェロ・ブオナローティとミケランジェロ・プルナーティは同一人物ではなく、時代・経歴・業績のあらゆる面で異なる別個の人物です。それぞれ異なる時代背景の下で活躍し、残した作品も分野も異なります。共通点は「イタリア出身の芸術家」でありファーストネームが同じ「ミケランジェロ」という点程度で、歴史的・血縁的な直接の関係は確認されていません。ブオナローティはルネサンス史に名を刻む大芸術家であり、プルナーティはバロック期ヴェローナの画家として地域に足跡を残した存在なのです。

参考文献:

- 【27】ミケランジェロ・ブオナローティ – Wikipedia日本語版 ja.wikipedia.org ja.wikipedia.org （2023年8月閲覧）
- 【24】Michelangelo Prunati – Wikipedia Italiano it.wikipedia.org （2023年8月閲覧）
- 【17】Fabien Benuzzi, **PRUNATO, Santo (Sante)** – *Dizionario Biografico degli Italiani*, Treccani [treccani.it](https://www.treccani.it) （サンテ・プルナーティの伝記に子息ミケランジェロ（1690–1756）の記載あり）
- 【19】Michelangelo – *Encyclopedia Britannica* [britannica.com](https://www.britannica.com) （ミケランジェロ・ブオナローティの生没年および肩書）
- 【16】ミケランジェロ・ブオナローティ – Wikipedia日本語版 ja.wikipedia.org （代表作《ピエタ》ダビデ像》およびシスティーナ礼拝堂の壁画に関する記述）

引用

W ミケランジェロ・ブオナローティ - Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%82%B1%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B8%E>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%82%B1%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B8%E3>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%82%B1%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B8%E>

https://it.wikipedia.org/wiki/Michelangelo_Prunati

[https://www.treccani.it/enciclopedia/santo-prunato_\(Dizionario-Biografico\)/](https://www.treccani.it/enciclopedia/santo-prunato_(Dizionario-Biografico)/)

https://it.wikipedia.org/wiki/Michelangelo_Prunati

https://it.wikipedia.org/wiki/Michelangelo_Prunati

https://it.wikipedia.org/wiki/Michelangelo_Prunati

https://it.wikipedia.org/wiki/Michelangelo_Prunati

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%82%B1%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B8%E>

<https://www.britannica.com/biography/Michelangelo>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%82%B1%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B8%E>

すべての情報源

 **britannica**